

3日付で発表された秋の叙勲では、さまざまな分野での長年にわたる功労が認められ、県内からは旭日章に28人、瑞宝章に198人が選ばれて荣誉に輝いた。旭日双光章を受章した県家具工業組合理事長の横内昭次郎さん(77)にこれまでの歩みを聞いた。

# 秋の叙勲 県内から226人

旭日双光章 県家具工業組合理事長

## 横内昭次郎さん (77)



自らが手がけた木材モデルを前に、喜びを語る県家具工業組合理事長の横内昭次郎さん(横浜市都筑区)

た。18歳の頃に仕事を求めて故郷を離れ、横浜市西区に本社を置く家具製作会社に就職。当時最先端の木材加工技術を持っていた音響メーカーに出向し、技術を磨いたこともあった。

これまでに製作してきたモデルは、炊飯器や冷蔵庫などの家電をはじめ、エレベーターやトイレなど多岐にわたる。設計図に基づき細かな部分まで再現して立体化することで、完成品のイメージがつかみやすくなり、製品化の前に改良を加えるのに役立つ。「開発担当者に『こうするとデザインが生きる』などと提案し、実際の商品に反映されることは魅力的だった」と話す。

30歳を前に、技能の高さを評価してくれた取引先に「いっそのこと会社を作ったらどうだ」と声を掛けられて独立し、「横内製作所」を立ち上げた。それから約半世紀、JR品川駅の案内用電光掲示板や首都高速の非常脱出通路、大手電

機メーカーの家電などさまざまなモデルを作製。電光掲示板などはモデルにとどまらず実物の製作にも携わった。それ以外にも木工技術を生かし、東京芸術大学の音楽ホールで、音響効果に優れた内壁の製作などにも当たった。

# 柔軟さの根底に情熱

木材加工の技術を生かし、「うれしいけれど、大し、大手電機メーカーなどが開発を目指す工業製品の果。自分の力はたいしたこ模型である『モデル』を半とない」と控えめに喜ぶ。世紀以上にわたって作り続山梨県韮崎市でクリーニ

速の非常脱出通路、大手電

会社設立から半世紀の間に、木材が中心だったモデルの材料は、樹脂や金属中心へと様相を変えていったが、顧客の要望に合わせ最適な材料をその都度選択するなど、時代の変化に柔軟に対応してきた。

柔軟さの根底にあるのは、より良い製品を作ろうとする情熱だ。「相手の要望に応えた上で、経験に基づきさらに良くなる提案をする。夢のある仕事ができたら、うれしいよね」と笑顔を見せた。

(右崎雅子)

### 喜びの受章者

- ▽旭日双光章(14人)
  - 大角 共栄71元南足柄市議
  - 岡部 守男75日本視聴覚教育協会常務理事
  - 風間 喜美子78元県青色申告会連合会副会長
  - 川口 忠人70元県宅地建物取引業協会副会長
  - 小山 俊一70県造園業協会副会長
  - 武井 義彦77元県こんやく協同組合理事長
  - 館盛 勝弘70元県議
  - 利岡 信和70日本保安用品協会副会長
  - 中江 清光73三浦市医師会長
  - 葉梨 之紀73元日本医師会常任理事
  - 浜出 雄三73元東京都水泳協会会長
  - 布川 玲子70元山梨県地労委委員
  - 山田 登美夫70元愛川町長
- 横内昭次郎77県家具工業組合理事長